

令和5年度「歴史総合」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
2	普通・理数・美術	地理歴史	歴史総合	2	必修
教科書	歴史総合 近代から現代へ(山川出版社)				
副教材	歴史総合 近代から現代へノート(山川出版社)、新詳歴史総合(浜島書店)				

0

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p>

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	6	2	2
主な評価方法	定期考査		
	レポート・提出物		
	レポートの提出状況と取組状況		
	自己評価		

履修上の注意及び学習のアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた情報を考えもせず鵜呑みせず、思考のフィルターを通すこと。 ・疑問があれば恥ずかしがらずに尋ねること。 ・他者が意見を言う権利を妨げず、健全なコミュニケーションを取ること。 ・予習することよりも、復習することに重点を置くこと。
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの				
	二高ICEモデルとは？	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする	

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	第I部 近代化と私たち 第1章 結びつく世界 第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ 世界の成立	産業革命や市民革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し表現する。		○産業革命は、人々の生活をどのように変えたのか。 ○市民革命は、ヨーロッパにどんな国家を生んだのか。
	5				○ナショナリズムとはそもそもどんな思想か、また「国民国家」がヨーロッパ全体に広がっていったのはなぜか。
	6			期末	○世界の辺境に過ぎなかったアメリカが世界の覇権国家になっていったのはなぜか。 ○インドや東南アジアが欧米諸国によって植民地化されていったのはなぜか。
	7	第3章 明治維新と日本の立憲体制	日本における国民国家の形成を、アジア諸国やその他の国や地域の動向と比較したり関連付けたりするなどして、多面的・多角的に考察して日本の政治変革や国家の特徴を理解し、表現する。		○日本が欧米列強の植民地にならなかったのはなぜか。
第2学期	9			中間	○日本で立憲体制が確立したのはなぜか。
	10	第4章 帝国主義の展開とアジア	帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。		○日清戦争で、日本の東アジアでの地位はどう変わったか。 ○帝国主義という動きはなぜ起こったか。
	11			期末	○日露戦争の影響で活発化した、アジアの民族運動の多くが失敗したのはなぜか。
	12	第II部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	第一次世界大戦の推移と大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向と比較したり相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア・太平洋地域の協同体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現する。		○第一次世界大戦で同盟国が敗北したのはなぜか。 ○国際連盟の構想が生まれたのはなぜか。
第3学期	1				○第一次世界大戦を通して、欧米諸国で女性の権利が拡大したのはなぜか。 ○第一次世界大戦後、アジア・アフリカで民族運動が高揚したのはなぜか。
	2	第6章 経済危機と第二次世界大戦	経済危機から第二次世界大戦に至る国際秩序や政治体制の変化と、大戦の推移及び大戦が戦後世界に与えた影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向と比較したり相互に関連付けたりするなどして、大戦に至る要因や大戦の惨禍及び大戦下の社会状況や人々の生活などを多面的・多角的に考察し、表現する。	学年末	○国際連盟が第二次世界大戦の勃発を防げなかったのはなぜか。
	3				○世界恐慌が列強の対立につながったのはなぜか。 ○日本が太平洋戦争を引き起こしたのはなぜか。

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「地理歴史（地理総合）」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
2	普通科・理数科・美術科	地理歴史	地理総合	2	必修
教科書	東京書籍『地理総合』、帝国書院『新詳高等地図』				
副教材	東京法令出版『新編 地理資料2023』				

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	地理的諸事象や地域性、現代的諸課題の分析・考察に必要とされる基礎的知識（用語・地名など）や基本的概念（空間・環境・地域）を身に付けている。	地図化したことを他の地理的諸事象との関わりから分析・考察・解釈し、そこから地理的概念や規則性（地理的見方・考え方）を見出すことができる。	現代的諸課題について、地域性をふまえて、その背景・要因・解決策を多方面から追究し、環境・人権・平和の観点からより良い社会のあり方を提言することができる。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	5	3	2
主な評価方法	定期考査・課題考査・校内実力考査・確認テスト等の結果		
	授業プリントの提出状況とその取組状況		
	考査解き直しノートの提出状況と取組状況		
	長期休業中のレポートの提出状況と取組状況		

履修上の注意及び学習のアドバイス	学習プリントは冊子ノートに張り付けるか、フラットファイルに綴じ込むこと（クリアファイルの使用は不可）。Chromebookは使用しない。 地理的事象について、背景を理解しようとし、統計資料からストーリーを読み取る。世界の動きについて、常に情報感度を高めておくこと。
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	二高ICEモデルとは？ Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	地形①（大地形）	世界の大地形について、形成・分布の特色・地下資源との関係について世界的な視野から学習する。		大地形の形成要因について
	5	地形②（小地形）	河川や海岸における諸地形の特徴について考察する。また写真や地形図を用いて、地形環境と人々の生活との関係を考察する。		地形と生活の関係について
	6	自然災害と防災	自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解するとともに、自然災害に関する地理情報を収集し読み取る地理的技能を身につける。	○	地震災害の要因について
	7	気候①（気候要素・気候因子）	大気の大循環のメカニズムを理解することで、地域による気候の違いとその要因について考察する。		豪雨災害の要因について
第2学期	9	気候②（ケッペンの気候区分、熱帯、乾燥帯、温帯）	世界の各気候帯（熱帯、乾燥帯、温帯）とそこに居住する人々の生活の特徴について理解するとともに、気候環境と人々の生活との関係について考察する。	○	A w気候の雨季乾季について
	10	気候②（亜寒帯、寒帯、気候区分の判別） 農業①（自給的農牧業）	世界の各気候帯（亜寒帯、寒帯）とそこに居住する人々の生活の特徴について理解するとともに、気候環境と人々の生活との関係について考察する。		寒冷地域の建築物について
	11	農業②（商業的農牧業、企業的農牧業）	農業の発達と農業地域の形成の関係について理解した上で、農業の国際化と食生活の変化との関係について理解する。	○	灌漑農業と水問題について
	12	農業③（日本の農牧業）	農業の発達と農業地域の形成の関係について理解した上で、農業の国際化と食生活の変化との関係について理解する。		日本と世界の農業との比較
第3学期	1	林業、水産業、食料問題	世界の林業・水産業を取り上げ、それぞれの特色や分布、形成要因などについて考察し、基礎的・基本的知識を習得する。世界や日本の食料問題・課題を世界的視野に留意して概観し、形成要因を考察する。		フードマイレージにより見えることとは
	2	鉱工業①（エネルギー資源、鉱産資源）	世界の資源・エネルギーを取り上げ、それぞれの特色や分布、形成要因などについて考察し、基礎的・基本的知識を習得する。世界や日本の資源・エネルギー問題を世界的視野に留意して概観し、形成要因を考察する。	○	エネルギー資源と環境問題
	3	鉱工業②（工業の発展と立地）	世界の工業の成り立ち・立地を取り上げ、工業地域の形成と変容に関して考察し、基礎的・基本的知識を習得する。グローバル化中の世界と日本の工業に関して世界的視野に留意して、それらの動向・形成要因について考察する。		世界各地の工業立地について

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「世界史B」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
3	普通・理数・美術	地歴	世界史B	4	選択
教科書	『詳説世界史B改訂版』山川出版社				
副教材	『グローバルワイド最新世界史図表四訂版』第一学習社、『詳説世界史整理ノート改訂版』山川出版社、『世界史B用語集』山川出版社				

	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
学習の目標	基本的歴史事項を理解する。 社会事象の歴史的な見方・考え方を身につける。	歴史事項の時間的・空間的つながりに気づき、その気づきをもとに自ら課題を発見する。 世界の歴史事象を学ぶことにより、グローバル化に対応する広い視野を身につける。	歴史事象から課題を、現代と結びつけて考察し、現代社会に対する理解を深める。 よりよい社会の実現のために、課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	1/3	1/3	2/3
主な評価方法	課題考査・校内実力考査・確認テスト等の結果		
			提出物の提出状況とその取組状況
	レポートの提出状況と取組状況		

履修上の注意及び学習のアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・進度が速いので、毎日の復習に力を入れて学習する。 ・教科書と図説を使って、歴史事項の縦と横のつながりを意識した学習をする。 ・海外のニュースに関心を持ち、世界史との関連を考えるようにする。
------------------	---

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
二高ICEモデルとは？	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	第13章 帝国主義とアジアの民族運動	帝国主義段階に入った欧米諸国が、現地人の抵抗を抑えながらアジア・アフリカ・太平洋の再分割を進め、第一次世界大戦に至る国際情勢が形成されたことを理解する。		○欧米による植民地化がなければ、アジアやアフリカはどんな発展をしたと考えられるか。 ○植民地の人々の抵抗は、なぜ欧米諸国に抑え込まれたのか。
	5	第1章 オリエント地中海世界 第2章 アジア・アメリカの古代文明	世界の各大陸の諸地域における文明の形成過程を理解し、現代社会の源泉となった各文明について理解する。		○多民族が共生する国家とはどのようなものか。 ○多くの民族が興亡していく中で、民族固有の文化は固定的なものになるのか。
	6	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 第4章 イスラーム世界の形成と発展	ユーラシアにおける各文明が、相互に交流し経済的・文化的に相互に影響を与えていたことを理解する。		○ユーラシア大陸の古代文明は、日本に何をもたらしたか。 ○信者の生活を大きく規制するイスラームが、なぜ急速に広まったのか。
	7	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	ヨーロッパ世界の成り立ちと、16世紀以降の西欧諸国による世界の一体化の前段階が、準備されていた過程を理解する。	期末考査	○ヨーロッパでは、なぜ「教皇」や「皇帝」などの民族の枠を超えた権威が必要だったのか。
第2学期	9	第6章 内陸世界・東アジア世界の展開 第7章 アジア諸地域の繁栄	14世紀～18世紀、西欧諸国の世界進出が本格化する時期のアジア各地には、それまでの諸地域の歴史・文化を集大成するような王朝が繁栄していたことを理解する。		○多数派の民族が少数派の民族の支配をなぜ受け入れるのか。 ○西欧の大航海時代が、どのようにアジアに繁栄をもたらしたのか。
	10	第14章 二つの世界大戦	欧米を中心として一体化が進んでいった現代社会が、二度の世界大戦を通して国際関係を大きく変えていったことを理解する。	中間考査	○なぜ国際連盟は、第二次世界大戦を防げなかったのか。 ○ドイツ人はなぜヒトラーの支配を受け入れたのか。
	11	第15章 冷戦と第三世界の独立	戦後は、冷戦とこれに対抗するために独立したアジア・アフリカ諸国が第三勢力を形成し、国際社会が動いていったことを理解する。		○第二次世界大戦後、なぜ社会主義国が数多く誕生したのか。
	12	第16章 現在の世界	冷戦構造の崩壊と共に、環境問題・地域紛争・富の偏在と格差問題など、全人類が取り組まなければならない課題が表面化してきたことを理解する。	期末考査	○なぜ冷戦後も多くの地域紛争が発生したのか。
第3学期	1				
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「地理B」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
3	普通科・理数科・美術科	地理歴史	地理B	4	選択
教科書	新編詳解地理B改訂版 地B305(二宮書店)、新詳高等地図(帝国書院)				
副教材	データブック オブ・ザ・ワールド(二宮書店) 新編地理資料(とうほう) 新地理要点ノート、新地理の研究(啓隆社)				

学習の目標	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、結果を適切に表現しその過程や結果を適切に表現している。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付ける。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	(I) / (C)		(E)
主な評価方法	課題考査・校内実力考査・確認テスト等の結果		
			提出物の提出状況とその取組状況
	レポートの提出状況と取組状況		

履修上の注意及び学習のアドバイス	<p>○単に用語を暗記するだけでなく、具体的な例(場所)を地図帳を使って確認するようにしてください。</p> <p>○2年次に学習した自然環境を土台として3学年で学習する農業、工業、都市などは成り立っています。2年次の学習と関連づけて考えるようにしてください。</p>
------------------	--

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	第2章第1節 農林水産業	世界の農業・水産業・林業を取り上げ、それぞれの特色や分布、形成要因などについて考察し、基礎的・基本的知識を習得する。世界や日本の食料問題・課題を世界的視野に留意して概観し、形成要因を考察する。	実力 考査	ヴァーチャルウォーターの観点から、日本は国内総水資源使用量の3分の2を世界に頼っている。日本としてどのような行動を取る必要があるか。
	5	第2章第2節 資源・ エネルギー	世界の資源・エネルギーを取り上げ、それぞれの特色や分布、形成要因などについて考察し、基礎的・基本的知識を習得する。世界や日本の資源・エネルギー問題を世界的視野に留意して概観し、形成要因を考察する。		脱炭素と脱原子力は成り立つか。
	6	第2章第3節 工業	世界の工業の成り立ち・立地を取り上げ、工業地域の形成と変容に関して考察し、基礎的・基本的知識を習得する。グローバル化する中で世界と日本の工業に関して世界的視野に留意して、それらの動向・形成要因について考察する。	期末 考査	オーストラリアの鉱工業について、日本と比較しながら説明せよ。
	7	第3章第1節 人口	世界の人口分布、人口増加・人口構成に関する動向を取り上げて、形成要因に関して考察し、基礎的・基本的知識を習得する。世界の人口増加地域と減少地域の人口問題を比較しながら、日本の人口問題とも関連させて考察する。		①UAEの人口ピラミッドの特徴について説明せよ。 ②2005年以降の訪日外国人数の変化について、日本国内、国外、移動手段に関わる理由に言及し説明せよ。
第2学期	9	第3第2節 村落・都市	様々な規模の集落があることを理解し、村落の立地と形態、都市の発達と変容に関して考察し、村落・都市に関する基礎的・基本的知識を習得する。世界と日本の居住・都市問題の地域性や形成要因について世界的視野に留意して考察する。地形図から村落形態を読み取る地理的技能を習得する。	実力 考査	①路村の地割りの特徴、成立経緯、配置の理由について説明せよ。 ②ロンドンのジェントリフィケーションの進行に伴う、中心部・周辺部・首都圏全体の労働人口の変化の特徴を説明せよ。
	10	第1節 衣食住 第2節 言語と宗教 第3節 民族と国家	世界の衣食住、言語と宗教を取り上げ、それらの分布と特色を理解し、地域性との関連を考察し、基礎的・基本的知識を習得する。民族と国家との関連を理解し、基礎的・基本的知識を習得する。世界的にみた民族と国家との多様性や日本の領土問題について考察し、国家群や国連の役割を理解する。	中間 考査	ロシアによるウクライナ侵攻の背景を考察せよ。
	11	第Ⅲ編 現代世界の地誌的考察 第2章 現代世界の諸地域	現代世界が自然、政治、経済、文化などの指標によって様々な地域に区分できることを理解し、多様な区分から現代世界の特色を理解する。	期末 考査	
	12	第Ⅲ編 現代世界の地誌的考察 第3章 現代世界と日本	今までの学習を基にして、日本の自然、産業構造、人口構成と居住問題、伝統文化保全とグローバル化に関して、日本がかかえる地理的な課題を生徒自らに発見し、その課題を多面的・多角的に考察、探究する。		
第3学期	1				
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。

令和5年度「日本史B」シラバス

学年	学科・コース等	教科	科目	単位数	履修形態
3	普通科・理数科・美術科	地理歴史	日本史B	4	選択
教科書	詳説日本史B改訂版 山川出版社				
副教材	・改訂版詳説日本史B整理ノート 山川出版社 ・図説日本史通覧 帝国書院				

	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	学びに向かう力、人間性 (E)
学習の目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき考察し、歴史の構造とその変化を理解する。	歴史を現代の課題と関連して主体的に学び、歴史的思考力を養う。	日本の歴史を世界の動きと関連して把握し、国際社会に生きる日本人としての自覚と資質を身につける。

評価	知識・技能 (I)	思考・判断・表現 (C)	主体的に学習に取り組む態度 (E)
評価の割合	(斜線表示)		
主な評価方法	課題考査・校内実力考査・確認テスト等の結果		
			提出物の提出状況とその取組状況
	レポートの提出状況と取組状況		

履修上の注意及び学習のアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の前に教科書をよく読んでおくこと。 ・授業では説明をよく聞き、ノート空欄の答えだけでなく、説明された事項など自主的にメモをとること。 ・歴史事象の背景や、他の事象との因果関係を考えながら学ぶこと。 ・教科書中の表・グラフ・地図を読みとり、その意味することを考えること。 ・授業の復習を必ず行うこと。
------------------	--

※備考	⇒探究活動・探究型授業における学習や、生徒の思考力を多面的に評価するために開発されたもの		
二高ICEモデルとは？	Iフェーズ： 学んだ知識や技能をつかうことができる	Cフェーズ： 学んだ知識や技能を応用できる	Eフェーズ： 自分自身で学びを調整しようとする

令和5年度 年間指導計画

学期	月	単元等	学習のまとめりごとの目標	定期 考査	単元の本質を表現する問い 生徒の「なぜ」を引き出す問い
第1学期	4	第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権	○旧石器・縄文文化の社会について考察する。○環濠集落や武器の出現、『魏志』倭人伝などの文献資料に基づき、多角的に考察する。○古墳などの変容からヤマト政権成立までの過程を考察する。		○日本列島の歴史はいつどのようにしてうまれたのか。○倭国は中国・朝鮮半島とどのようにかかわったのか。
	5	第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道 3 平城京の時代	○天智・天武朝を中心に律令体制整備を考察する。○律令体制の整備について遣唐使や地方社会との関わりも踏まえて考察する。○政界における藤原氏の進出、墾田永年私財法による初期荘園の誕生などを踏まえて考察する。		○ヤマト政権の政治改革の特徴を東アジアの視点から説明せよ。○倭国は大陸との交流のなかでどのような国家をつくったか。
	6	4 天平文化 5 平安王朝の形成 第3章 貴族政治と国風文化 1 摂関政治	○国史の編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想などについて考察する。○藤原北家の発展過程を理解し、荘園の拡大など律令体制の変容をとらえて、摂関政治を考察する。	期末考査	摂関政治はどのようにして始まったのか。
	7	2 国風文化 3 地方政治の展開と武士 第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭	○国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察する。○荘園公領制が明確化されたことを踏まえて、院政の政治構造や社会を理解する。		武士はどのように勢力をひろげていったのか。
第2学期	9	2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化	○幕府と朝廷の二元的支配構造や封建制度の成立を考察する。○執権政治の確立を踏まえ、武家政権の形成を考察する。○鎌倉新仏教が成立した背景などを考察する。		鎌倉幕府の成立は社会にどのような影響を与えたのか。
	10	第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	○鎌倉幕府の滅亡、建武の新政を踏まえて南北朝の動乱を考察する。○南北朝・北山・東山文化を通じて、武家・公家文化の融合、禅文化の果たした役割などを理解する。	中間考査	対外交易や貿易の拡大は日本の生活や文化にどのような影響を与えたか。
	11	第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 桃山文化 3 幕藩体制の成立 4 幕藩社会の構造	○織豊政権の統一過程とその政策を考察する。○幕藩体制の特質を封建的身分秩序の形成や経済的基盤などを踏まえて考察する。○文治政治への転換から元禄時代・正徳の政治を取り上げ、幕政を考察	学年末考査	○ヨーロッパ人はなぜ東アジアに來航したのか。○徳川家は支配のためにどのような制度をつくったのか。○武士による統一政権はどのような問題に直面していたか。○幕府は国内外の危機にどのように対応しようとしたか。
	12	第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道	○享保の改革・田沼時代・寛政の改革の諸政策を考察する。○文化・文政時代と天保の改革の失敗から幕府の衰退を理解する。○文化における近代化の芽生えを考察する。		
第3学期	1	◎大学入学共通テスト対策の演習	※共通テスト終了後、二次試験対策、私大対策の演習		
	2				
	3				

※行事等で変更になる場合があります。